

グリーンランドの話 (01・12・15)

高田良一 (昭23文乙)

はじめに

只今ご紹介に与りました昭和二三年文乙の高田でございます。どうしてグリーンランドの話をするようになったのか、その辺からお話ししなければいけないのですが、そうなる、最初に多少私事にわたることを話さなければいけないということになりますので、この点ご容赦を頂きたいと思えます。

実は三年前に長女がグリーンランドのイヌイットと結婚して、いま向こうに住んでおりますので、二年前の夏あちらへ行つたのですが、二人目の子供が出来るといので家内が手伝いに行きたいと言いだし、今年の三月から四月にかけてまた行ってきました。それで三年の間に続けて二回もグリーンランドへ行つて来たというのが実情でございます。

どうしてグリーンランドに彼氏ができたのかと言いますと、娘は大学の頃からカヌーを

やっております。カヌーというのは南洋の先住民があやつるカヌーとは別に、北方の先住民があやつるカヤックというのがあるのだということを後で知ったのですけれども、娘はカヤックの方をやっていました。

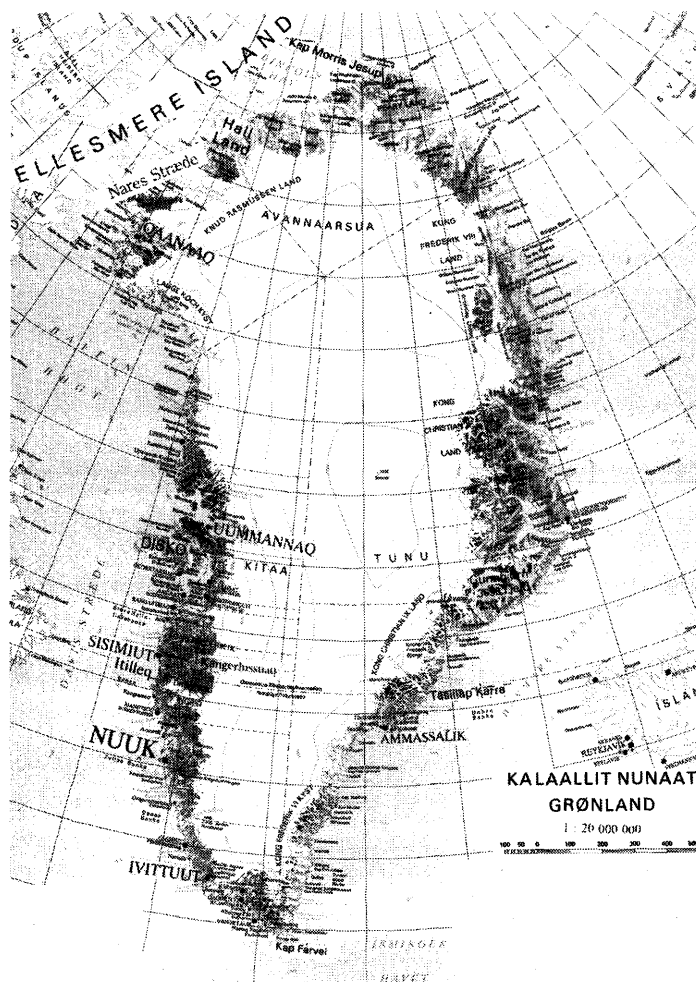
その娘が大学を出まして、勤めてからもカヤックをずっと続けて、師範の免状を取って、若い女の子、男の子を奥多摩川とか、富士五湖へ連れ出してカヤックを教え、そのあとキヤンプ・ファイアなどを楽しんでいた様ですが、だんだん病膏肓に達しまして、日本では飽き足らなくなり、カナダの西海岸やアラスカに行ったり、あるいはメキシコのバハ・カリフォルニアへ漕ぎに行くようになりました。

大学を出て恐らく一五年も経って古手になって来ますと、会社で長い夏休みが自由にとれる様になるに従って行程もだんだん延びて、一九九五年頃になりますとハドソン湾からさらに東の方まで出掛けるようになりました。

そこへたまたまグリーンランドから観光の誘致に来ていた将来の旦那になるべき人と会って、「ぜひグリーンランドへ来い」ということで、その翌年はグリーンランドへ行つてとても感激して帰ってきました。何に感激したかというと、彼女にとってカヤックというのは、野球のグローブやバットのように、スポーツで使われる道具でしかなかった。それがグリーンランドでは日常生活に無くてはならない乗り物、即ち交通手段として使われて

いるのです。それがなぜそんなに感激すべきことなのか、私には必ずしもよく分らないのですが、とにかく娘はそれに感激をして、それでその翌年もグリーンランドに出掛け、二年目にどうやら二人は気が合って一緒になることとなった次第です。娘は丁度四〇才でもう結婚しないのだろうと思っていたのですが、やっとゴールインして親としてホットする反面、そう簡単にはグリーンランド迄は行けないのではないかと思っていた所、翌年の夏、引越の途次首都（正確には行政の中心地）ヌウクに立ち寄るのに併せて同地を訪ね、その後ヌウクに引越してきましたので、二人目の孫出産の機会に、家内はやはり孫に会いたいということで、私は道案内役で二度目のグリーンランド行きとなった次第です。

ここにち、世界の何処へ旅行いたしましたも、日本の観光客が必ずいるのですが、グリーンランドではまず見掛けません。最初の旅行で一人それらしき人を見かけだけです。夏には探検家まがいの旅行者を見掛けますがドイツ人が多いようです。懐具合がいいからでしょう。今日お集まりの皆様の中にも恐らくグリーンランドへ行かれた方は無いと思います。今日のご案内には「グリーンランド紀行」と謳ってあるのですが、別に探検のためとか学術調査のために行ったわけでもありませんし、また観光に行ったわけでもありませんから、とにかく二回行って来た経験に基づいて、あまりよく分からないまま、グリーンランドについてお耳をよごしたいと思います。



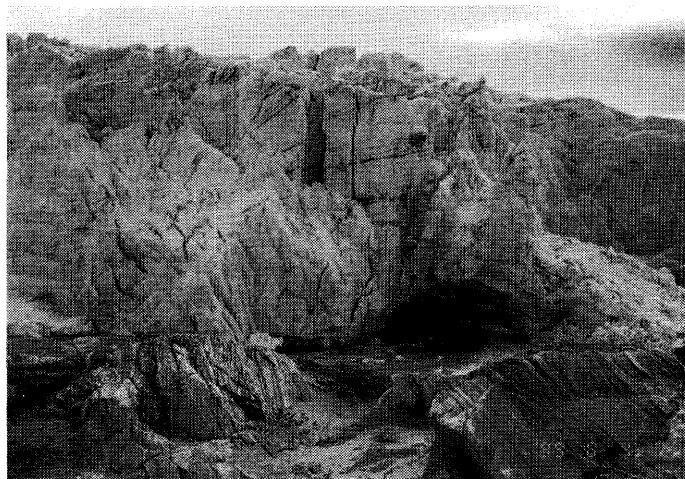


写真1 夏になると氷床が溶け崩れ、氷山となってフィヨルドを下り、大海に出る。写真の氷床は10階建て位のビルの高さがある。

地 理

グリーンランドはアメリカ大陸の北東部にあり、その面積は二一六万六千平方キロ、世界で最も大きい島（オーストラリアは最も小さい大陸）で日本の約六倍あります。その最北端にあるモリス・ジェサップ岬 (Kap Morris Jessup) は北極から七四〇キロ、北緯八三度三九分にあり、地球の陸地の最北端に当たります。その最南端のファージェル岬 (Kap Farvel) は北緯五九度四五分にありますから島の南北の長さは二、六七〇キロで、東西の最も長いところで一、〇五〇キロあります。その西北方はカナダに接近してお



写真2 グリーンランドの最高峰グンビヨウンス山は氷床の上に聳えている。

り、ナレス海峡 (Nares Strade) が最も狭くなっているホールランド (Hall Land) 付近では対岸のカナダのエルズミア島 (Ellesmere Island) とは二六キロの至近距離にあります。

北極圏は六六度半以北ですから、その境界線がイチレク (Itilleq) とタシイラブカラ (Tasilap Karra) の辺を通っております。従ってグリーンランドの北約五分の四が北極圏、南約五分の一が亜寒帯圏に属するということになります。

その全土の八一%が氷床ひようしやうに蔽おほわれています。氷床とは万年雪が厚く積もって大陸的な広がりを持ったもので、因みに日本語では「氷の床ゆか」と書きますが、英語では「アイスキヤップ (icecap)」即ち

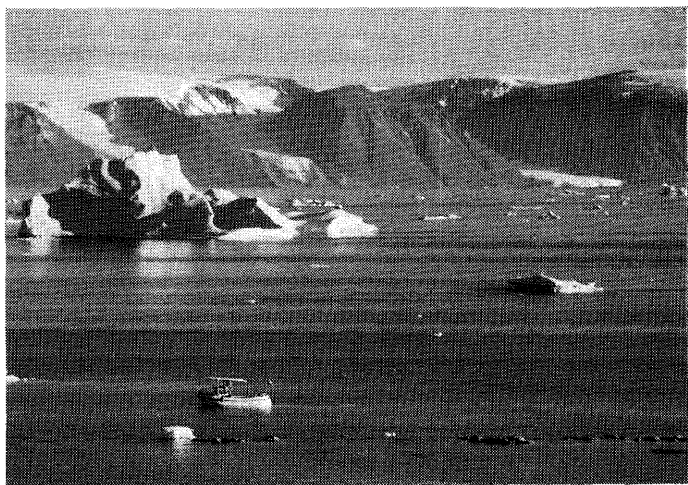


写真3 フィヨルドを下り、海に出た冰山。

「氷の帽子」と表現されます。この氷床は南極大陸に次ぐ二番目に大きいものです。氷床の最も高いところは一九九五年現在で海拔三、二三八メートルありましたが、地球の温暖化でその後年々少しくづつ低く、小さくなっています。従って昔の解説書を読みますと、氷が島の八五%を覆っていて外に現れている土地は一五%位という様に書いてありますが、最近ではそれが八一対一九位になって、土地が少しずつ広がっています。所でこの氷床の厚さがどれ位あるかと言いますと、何カ所かをボーリング調査した所では三、五〇〇メートル位あるらしい。海拔三、二〇〇メートル余りの高さで厚さ三、五〇〇メートルということは氷床の



写真4 余った鯨肉は岩場に置いておくと冷凍肉となり、誰でも自由に持って行って良い。

底は海面下に沈んでいることになります。グリーンランドはニューヨークのマンハッタンと同じように一枚の岩だと言われておりますが、それが万年雪の重さで何万年かの間に三〇〇メートル弱沈んでしまったという訳です。海岸線に近い所は夏は氷が溶けるので沈まないのですが、内陸の方は氷床の重みで沈んだ、というのが定説になっています。グリーンランドの最高峰はグンビヨウンス山 (Gunnbjorn Fjeld) という、富士山よりちょっと低い三、六九三メートルの山があります。これは氷床より高い岩山ですから氷床の上に聳えています。なお、グリーンランドにはお隣のアイスランドとは異なり、火山脈は通って居らず、温泉も沸



写真 5 麝香牛（ジャコウウシ）

き出ません。また、グリーンランドの北東部約四分の一は九七万二千平方キロに及ぶ世界最大の国立公園に指定されており、管理要員以外は無人で、立ち入るには政府の許可が必要です。

さき程グリーンランドは北五分の四が北極圏、南五分の一が亜寒帯圏に属すると言いました。地理上は北極圏では夏には日が沈まない夜が、そして冬には日の昇らない昼が最低一日があります。娘の夫の出身地であるグリーンランド最北端の町カナアク（Qanaaq）では四月の下旬から八月の下旬までの約四ヶ月が夜も日が沈まない白夜で、一〇月下旬から二月中旬までの四ヶ月弱は逆に日中も太陽は昇らない極夜となります。これに対



写真6 環境研究所の廊下に吊された
一角鯨の剥製

して娘一家が現在住んでいるヌウク(Nuuk)は亜寒帯圏にありますから、白夜も極夜ありません。とは言っても、北極圏に近い亜寒帯ですから、夏至には日の出から日没までは二〇時間を超え、冬至にはこれが六時間を切ることとなります。

気候

以上の地理的な説明に対して、南五分の一は亜寒帯圏であるとは言え、そのごく一部である海岸線を除くと北からの氷床の一部であり従って気候的・環境的には氷床部分は北極圏に属し、海外線の僅かな部分が亜寒帯圏であると言いうことができます。それでは気候的・環境的に北極圏と亜寒帯圏とを区別するのは何かと言いますと、北極圏では喬木が生



写真1 グリーンランドの国花 Naviarsiaq (乙女)
学名: *Chamaenerion latifolium*

育出来ず、灌木類とか蘚苔類とか、そういう植物しか生育しないということのようです。

年間の平均気温は摂氏一〇度を超えることはないと言われていますが、これは冬も夏も入れている平均で、主として人の住んでいる国内十六カ所にある測候所の最新(一九九五年)の記録では最高気温はアマサリク(Ammassalik)で七月の二五・二度C、最低気温はカンガルスワック(Kangerlussuaq)で一月の零下四四・九度Cとなっています。因みにカンガルスワックは米ソのデタントで返還された元米空軍基地で、現在はグリーンランド内唯一のハブ空港として機能していますが、定住者はなく、技術者のみが駐

在している「駐屯地」であり、海岸線から百キロ以上の内陸にあります。空港の性格上測候所が設置されていますが他の測候所はすべて温暖(?)な町中にあるので、同所の測候所での記録が最も厳しく寒暖の差があるもの(最高気温は二二・九度Cと可成り高い)となるでしょう。更に奥深い氷床では最高気温は兎も角、最低の方は零下六〇度Cに達すると言われています。

私どもの二度の訪問の際の経験では、ヌウクでは真夏に太陽が照っている所で大体二〇度になります。但し、陰に入ると一〇度位しかない。三、四月は太陽が照っていても零下一〇度Cくらい、また娘の話によりますと、冬は零下四〇度C位になるようです。従って夏以外は飲みもの類を外へ出して置きますと凍ってガラスが割れますから、家の中に入れておかなければいけないし、逆に肉類などは、外へ出しておくと天然で冷凍されてしまうということ、善人しかいないような国ですから、例えば鯨なんかを捕って来て、さしあたり一番おいしいところは人が食べる、それ以外のところは犬ぞりの犬にやる、それでも余りますから、そういうのは岩の上に置いておくと自然に冷凍肉になる。それを通りがかりの狩人の連中が、勝手に持って行ってよいという、いわば原始共産主義的な感じが非常に濃厚な社会のようです。



写真8 ヌウクの中心地（ヌウク銀座？）前方左が郵便局，その奥が銀行，その向かいはスーパー。影になった道路の手前にホテルがある。

動物

次にどんな生物がいるかということですが、まず動物の方からお話ししましょう。陸の動物はカナダから凍った海を渡ってきたもので、北極熊、馴鹿（トナカイ）、北極狼、白狐、野兔、たび鼠等で、羊、鶏、犬、猫のたぐいは人間が食料、使役、愛玩等の目的で持ち込んだもので自活力はありません。麝香牛（じやこううし）は一九六〇年代に北米から持ち込まれ、自生増殖している唯一の動物です。海には哺乳類が多く白鯨（いっく）、一角鯨（かくくじら）、海豹（あざらし）、海象（せいそう）等があります。一角鯨は角を含めて三、四メートルの小型の鯨で海豹、白鯨と共にイヌイットの主食になっています。魚類の棲息は二百種類ほど



写真 9 ヌウク近郊の住宅街

確認されていますが、漁業の対象となっているものは海老、鮭、鯰なますなど限られた種類で、海老が輸出される他は内需に限られています。鱈と平目は嘗ては重要な輸出品でしたが、海流の変化により近時は殆ど獲れなくなっています。鳥類は約五〇種類ほど確認されており、その大半は渡り鳥です。岩雷鳥はグリーンランドだけで巣を作る鶉科うずらの鳥で食用に供されます。海鳥は鴟かもめと家鴨あひるが主で、亜寒帯圏の海岸線に沿って棲息しています。

植 物

植物の方は、亜寒帯圏の海岸線の辺りに杉や樅などの針葉の喬木が多少あるようですが、それ以外はすべて灌木であつ

て、更に北の方へ行くと次第に高山植物の草本類となり北限では蘚苔のたぐいしかなく、食用に供せるようなものではありません。現在その亜寒帯圏で試験的に幾種類かの野菜と花卉をグリーンハウスで栽培している様ですが、需要の大部分はデンマーク本国からの移入によって充足されています。デンマークはご承知の通りの農業国・酪農国ですから、スーパ―へ行きますと生果や生野菜が豊富に棚に並んでおります。また、冬場の羊の飼料として牧草も栽培され、干し草が作られています。

鉍物

鉍物資源には現状見るべきものではありません。ディスコ島 (Disko) には炭鉍があり、その石炭は泥炭と共に発電に使用されています。アルミの精錬に不可欠な氷晶石は現在人工氷晶石が主に使われている様ですが、天然のものがイヴィツウト (Ivittuat) 近郊の特産で、世界の需要の大半を供給しています。島の南部の専管海域には原油と天然ガスの鉍床の存在が確認されており、一九九七年以来スタットオイルが試掘を行っています。その他ウマナク峽 (Umannaq Fjord) には大理石が、オスカー王峽 (King Oscar Fjord) 等にウラン、石墨、亜鉛、鉛、モリブデン、金、プラチナ、鉄、低品位の銅等の埋蔵が確認されていますが採掘には至っていません。



写真10 市場には今日の獲物の鯨、海豹、麝香牛等の肉が並んでいる。

行政区画

それでは社会的な話題に移ることとしましょう。グリーンランド全体の人口は一九九八年現在、ほぼ五万六千人おります。その行政区画は町、入植地、駐屯地に分かれておりまして、グリーンランドには市と呼べる程の大きな人口集積地はありません。町 (town) というのは市に値する程大きくないけれども、町制を敷いていて、町議会があり、裁判所、警察もあり、学校、病院があつて、託児所もあるというように、一応文明に浴した生活ができる諸制度・体制が整っている所です。町制を敷いている所は一八あります。その中のヌウク (Nuuk) という

のが行政の中心地で地図によってはゴットホープ (Godthab) と表示されています。因みにグリーンランドの地名はすべて二通りに表示されます。一つはグリーンランド語による表現であり、もう一つはデンマーク語による表現なのですが、現在はほとんどグリーンランド語が使われており、デンマーク語は余り使われなくなっていますので、今日のお話もそれに従うことと致します。ヌウクは人口約一万三千人、二番目の町がその北方約三百キロにあるシシミュウト (Sisimiut) でその人口は約五千人、以下はすべて五千人未満の町で、一八番目の町は人口僅か一八四人で一応行政機構はありますが、町の体をなしているのは三つか四つくらいと言えるでしょう。

入植地 (settlement) には日用品兼食料品店、学校、託児所があります。駐屯地 (station) には夫々の目的の為の要員が駐在しているだけで定住者は居りません。

食べ物

イヌイットの食べ物は猟で獲ってくる動物が主体で鯨、海豹、麝香牛、馴鹿、岩雷鳥のほか、鱈、鯰、海老等の魚類です。海豹の肝はマグロのトロのようで、鯨の刺身、馴鹿のステーキも捨てたものではありません。野菜は屋内で栽培しない限り自生しませんから彼らの食卓には上りません。ただ、魚や哺乳類の肉を生食することによりビタミンCは充分

に摂取できるのだそうです。甘エビの新鮮さは東京の一流の料亭並みの鮮度で、バケツ一杯市場で買ってきてても懷が痛む程のことはありません。とは申せ、我々旅行者にとつてはこれが毎日続くのは閉口ですから、レストランに繰り出すこととなります。ヌウクに滞在する限り、日本食は食べられませんが、いわゆる洋食であれば一応何でも食べられます。ホテルには勿論レストランがありますし、町にも軽食から可成りフォーマルなレストランまでが幾つかあります。長期逗留者か、娘の様に住み着くこととなりますとスーパーで食品を調達することになります。スーパーでは日本のスーパーの様に、和洋中の材料が何でも揃っているという訳にはいきませんが、鯨や馴鹿の様な地元の産物は売って居らず、デンマークから取り寄せた食品が棚に溢れており、肉、魚は冷凍物が中心、果物・野菜類は鮮度の良い物が日本よりは安い値段で揃っております。

寒い所ですが地酒はありません。アルコールを醸造する素になる適切な種子が自生しないことによるものと思われまゝ。従つて蒸留酒もなく専ら大衆はビールを飲んでいる様です。バーに行けば勿論ウィスキー、ブランドー、その他リキュール類は一応揃っています。ワインは大衆向けブランドのものはありますが、一般に余り飲まれていない様です。デンマークの地酒で焼酎の一種と思われるものに「ガメルダンスク」と言うのがありますが、薬草の香りが高いため本国でも「胃腸薬」と言われて嗜む人は少なく、グリーンランドで



写真11 氷床の上を駆ける犬橇

も余り見かけません。

言語

言葉に関して申し上げますと、イヌイットはグリーンランド語を喋っており、イヌイットの標準語は人口の一番多い南西海岸に住む人達の言葉で、東の方とは恐らく鹿児島弁と東北弁との違い程ある様です。娘の旦那は北西部の出身で、仕事の関係で結婚後間もなく東部に転勤になったのですが、赴任に先立ち、東部の方言を勉強しなくてはと申しておりました。北西部は北西部でまた別の方言ですが、割に南西部の標準グリーンランド語に似ているということで、大きく分けるとグリーンランド語は西の標準語と東

の方言とに分かれていますと言えます。旦那の場合、母国語は西グリーンランド語、第一外国語が東グリーンランド語、第二外国語はデンマーク語、英語は第三外国語でしかなく、私とは片言混じりで、なかなか意志を通じるのが難しいという状況で、この上に日本語を習得するのはご免を蒙りたい心境のようです。

交通

先にカンガルスワックにハブ空港があると申しましたが、そこへ本国のコペンハーゲンから毎日一往復と、アイスランドのレイキャビックから週一往復のスカンジナビア航空、それにカナダのイカルイットから週一便の同国ファースト・エアの三海上便が就航しています。カンガルスワックから国内各地へは小型機が主要な町へ飛んでいます。ヌウクとの間は毎日就航しているのを除くと週一便となります。その先へ行くにはヘリコプターに乗り継ぐこととなります。ヘリコプターは天候の異変で直ぐに欠航になりますから、グリーンランド訪問は最低二週間の日程を見て置かねばなりません。島内の道路は町の中以外に町と町とを繋ぐ中・遠距離道路は存在しません。氷床の上は専ら犬橇が利用されます。また、海岸線を巡る海上航路もありますが、一年を通して利用できる航路は極めて限られています。



写真12 ヌウクの雪祭り一札幌ほど大規模ではないが、外国からの参加者も少なくない。

歴史・自治

次にイヌイットの歴史を少し辿ってみることにしましょう。イヌイットがグリーンランドに到着したのは、いろいろ学説があるようですが、四千年前といわれ、一万年前ともいわれています。いずれにせよ、有史以前にカナダから渡って来たというのが定説になっています。

最初に申し上げました様に、グリーンランドの北東部とカナダのエルズミア島との間は二六キロしかありません。一万年前には地続きになっていたかも知れませんが、そうではなかったとしても、東京から横浜までもなく、川崎あたりまで、しかも冬は海が凍りますから、徒歩で渡



写真13 ヌウクの劇場 Katuaq で滞在中に上演された民族
舞踊

ってきたことは容易に領ける所です。この道は実は人間だけでなく、多くの動物も渡ってきた道であることは先程も申し述べた通りです。

イヌイットという言葉自身はグリーンランド語で「人々」と言う意味で、その昔アメリカでエスキモーと呼ばれた北方民族の一部族です。因みに「エスキモー」と言うのは差別語で最近では使われていません。そのイヌイット族は蒙古系であって、中央アジアからシベリアを通過してアラスカからアメリカ大陸へと渡ったのですが、アステカやインカとは違って南下することなく、北極を取り巻くところ、即ち北極圏に定住する様になりました。一方一部は西の方へも移動し、ウラ

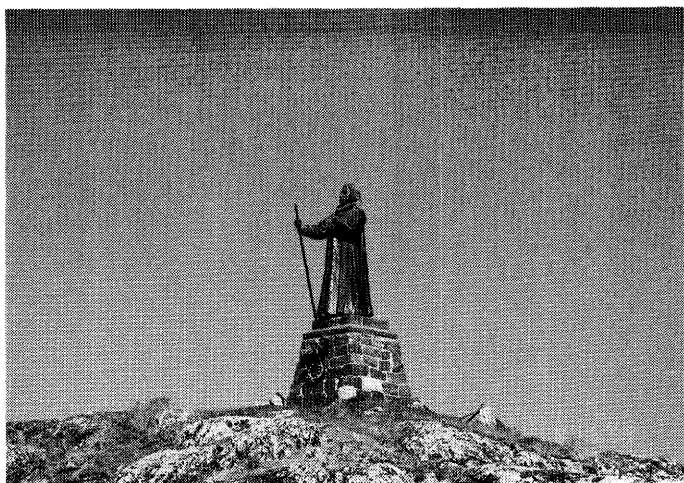


写真14 ヌウクの丘の上に立つハンス・エヘデ像

ル・アルタイの辺まで移動したようです。我々日本民族の祖先の一部である蒙古族は、アメリカインディアンとして南米まで行つたインカ族などを含めて、何千年の間に移動して各地に散らばつたということではないかと思ひます。

話をグリーンランドに戻しますと、イヌイットの動きとは別にバイキングの移動というのがあります。バイキングというのは北欧のノルマン人で進取の気性に富んで海外に進出した人達ですが、バイキングとして知られる前の紀元後の五〇〇年から千年くらいの間に何度かグリーンランドに定住を試みた様です。北欧から行き着いたのはグリーンランドの南西部ですが、結局は寒さの為に定住するに

至らず、滅びて了つたと言うのが、現在のデンマーク、従つて西欧の人達の説明です。バイキングの侵攻について言えば、彼らは北部アメリカ海岸（現在のカナダ領）のみならずアイスランドにも侵攻し、定住に成功した様です。でも、グリーンランドは彼らにとつても寒過ぎたということでしょうか？ 一方イヌイットの伝説によると、彼らはバイキングと戦争をしてやつつけたと言うくだりもあり、現在デンマークの統治下ゆえ、この辺はトーンダウンされている様ですが、バイキングの人達はグリーンランドの厳寒に堪えられず、その上イヌイットにも襲われたりして自滅したと言うのが真相に近いのでしよう。

その後一七二一年に至り、ハンス・エヘデ（Hans Egede）というノールウェイの牧師さんが今は行政の中心地となっているヌウクに宣教活動を目的に上陸し、定住に成功しました。ノールウェイの牧師さんなのにどうしてデンマーク領になったのかよく分からないのですが、これを潮に、デンマーク人がかなり定住を始めたようです。その後、アイスランド領になったり、ノールウェイ領になったりいろいろした様ですが、その後、ウィーン会議の一年前の一八一四年に、恐らくナポレオン戦争の戦後処理の一部に当たったのでしよう、軍港で有名なドイツのキールでキール条約という北欧地域の秩序を定める平和条約が締結され、そこでグリーンランドは正式に国際的にデンマーク領として認知をされました。そして今に至るまで三百年弱の間、デンマーク領になっています。第二次大戦までに見られ

た東南アジアやアフリカの植民地も同じ頃にイギリス、フランスやスペインの属領になったということはあるのですが、第二次大戦後に殆ど独立しています。所がグリーンランドは三百年間デンマークによる統治に甘んじながら、今日に至るまで独立の狼煙をあげる気配はありません。これは裏を返せば、グリーンランドでは非常にデンマークの治世が旨くいつていると思うことだと思えます。尤も、人口が少ないですから小国デンマークにとつても経済的にあまり負担にならないということはあるのです。デンマーク自身大多数の国民が満足する政治をおこなっていますから、グリーンランドも同様であると言うことなのでしょう。因みにデンマーク本国の善政について、コペンハーゲン駐在の日本大使に伺った所では同国は学卒の初任給でも所得税率が六〇%にのぼるのに、アンケート調査では国民の二五%は財政支出に誤りなきを期すれば更なる増税に反対はしないということです。

以上グリーンランドのイヌイットに関する限り、独立の機運は見られませんが、最近ノルウェイ、カナダ、アラスカのイヌイットと共に数年ごとに定期的にイヌイット北極圏会議という国際会議が開かれる様になり、ロシア（シベリア）のイヌイットも遠からず参加する様で、この会議の席上では民族自決の動きが話題になっているとのことです。現にカナダのイヌイットは一九九九年四月に北西準州から独立してヌナヴット準州を樹立し自治

権を獲得しましたが、グリーンランドのイヌイットにこの話を仕向けると、「我々は一九七九年来自治権を貰っているよ」と冷淡です。デンマークの自治権はホーム・ルールと呼ばれ、独自の議会を持ち、外交、国防、警察、通貨・金融政策、市民権に関する事項を除いて自決の権利を持っています。逆にデンマークの国会に二名の議員を送り込んでおり、本国でグリーンランドに関係することを審議した事項については必ずグリーンランド議会の同意を得なければならないことになっていて、独自の切手を発行する等、かなりの度合いの自治権を持っております。

教育・福祉

義務教育の制度は一〇〇年以上前に確立しており、グリーンランド政府の発表する統計では文盲率はゼロ%とされています。日本と同じように義務教育年限は九年で、西グリーンランド語で教育が行われ、デンマーク語は外国語として教えているということです。学校はすべて公立で八七校あります。そして義務教育課程、即ち中等学校までの事と思われませんが、一万人の生徒に対して、先生が千人以上いるということですから、かなり手厚い教育を受けていることになります。高等教育について言えば、高等学校は三つ、短大は二つ、大学がヌウクに一校あります。

最後に福祉について申し述べます。ご承知の通り、デンマークは非常な高福祉国家でありますから、グリーンランドもその恩恵を受けていて、医療費は歯医者も含めて、すべて無料です。すべての町に病院があり、小さい町の病院で手に負えない病気はヌウクの病院で診てくれる、ヌウクの病院でも手に負えない疾患はコペンハーゲンまたはアイスランドの病院に連れて行って、そこで診てもらえるということになっています。娘の最初の出産の時はカナアクという最北端の小さな町に住んでいましたが、高齢出産なので地元のホテルでは心許ないということで千五百キロ南のヌウクの病院に送り込まれて出産したのですが、最初の検診と出産時のヌウクまでの飛行機代を含めて全部国が出してくれました。また旦那の親父がその後病気になりました時は、カナアクの病院は言うに及ばず、ヌウクの病院でも手に負えないということで、コペンハーゲンまで行きました。それも飛行機代を含め全部出たそうです。そういうことで、最初は一体どんな生活をしておるのだろうと心配していましたが、ある意味では寧ろ平均的日本人よりも良い生活をしているのではないかと安心して帰って来た訳です。

日本人はまだあまり行っておりませんが、氷上ゴルフというものもあるそうです。是非皆様も機会があればグリーンランドを訪ねて残された自然を見て来られてはと思います。

どうもつたない話をご静聴ありがとうございました。

(元東京銀行常務取締役)